

野原地アンケート報告

オ一回越冬闘争は、昨年12月25日より開始された。二二数年続くアブレ地獄と行政の福祉切り捨ての中で、アオカン者が激増した

二ことが今越冬の大きな特徴であった。それはセンターでのアオカン者数が越冬期間中送人員六千四百八十名(昨年の約1.5倍)をみれば

一目瞭然である。センターのみをみても一日平均30人であり、昨年より約100名の増加であり、そのピーク時には更に正月三日に四百七六名に達している。更にアオカン者のピークは、例年、年末にあつたが、今年はそのピークが正月四日までずれ込んでいるのが特徴である。これは今年、正月三日、自強隊入寮が打ち切られた影響と考えられる。

五日以降、仕事が出始め、アブレの支給も始まって、アオカン者が減少したのはリフもの通りであったが、最終の一日でも20名であった。

このアオカン残業者は、リフもアオカンの危機にさらされやすい労働者と考えられるが、これらの労働者に対して、一月五日夜、越冬会は、対行政闘争に資するため、簡単な生活状況調査(26項目)を実施した。

調査にその一部を集計し、実態を示したい。(完全集計は後述として)

調査対象者は、15日センターでアオカンした労働者のうち154名(中有148名)である。その年平均と在位数を示す表

工のこくとであり、平均年令と平均在位数は、昨年と14年であり

平均在位数は、昨年と14年であり

平均在位数は、昨年と14年であり

平均在位数は、昨年と14年であり

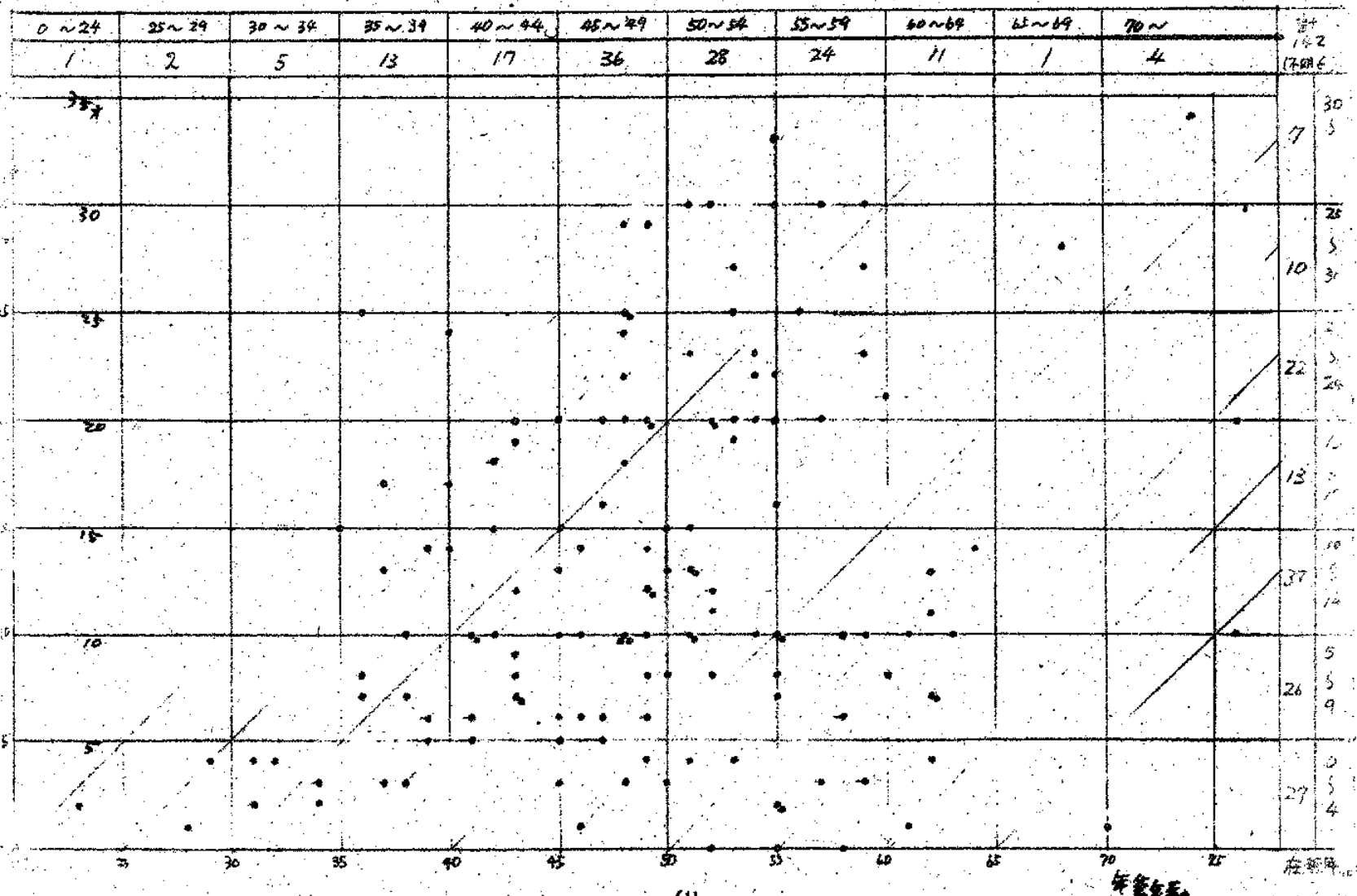
平均在位数は、昨年と14年であり

平均在位数は、昨年と14年であり

平均在位数は、昨年と14年であり

オ一回越冬(1月15日)アンケート調査 年令・在位数数相関表(表1)

不明6



た、今年では20才台は3名、50才以上40名でかなり高令に傾いて

いる。

在住年数の特徴は、一つには四十年前が5名、20年以上の長期在住者が3名と、この二つの階層に

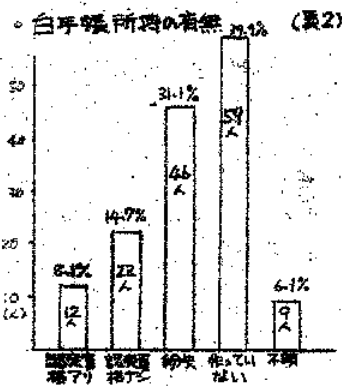
極端に分れており、平均在住年数は14年前後は、22名と比較的少ない。二つには、比較的高令者で

在住年数の浅い労働者、若い人かえれば、50才以上で登々時によって

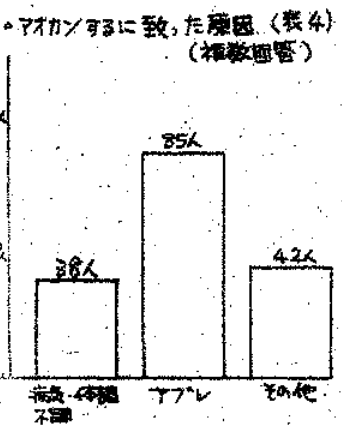
また人が比較的多く、前回の調査で見られる東郷町(調査では見られない)の特徴である。

つぎに、対象のアオカシ労働者は登々時の労働者の中でも最下層に属すると考えられるが、その性格をみる。

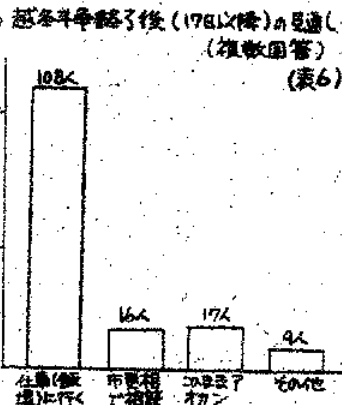
白手帳の



にいた



はどの



していいことを希望して

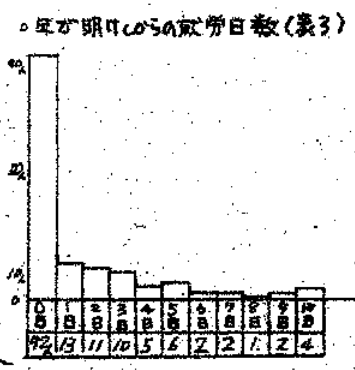
所持者(表5)は148人中34名で、残りの114名(不明9名)の圧倒的多数が所持していない。

この所持者の平均からみれば、非常に所持率は低く、彼らの就業状況も反映している。

表3は正月明け四日、14日まで就業日数の就業日数であるが、就業した者は148名中56名であり、残りの92名は全く就業していない。

就業したもののうち34名が三日以下の就業日数であった。残り92名は全く就業していない。就業したもののうち34名が三日以下の就業日数であった。

就業したものは148名中56名であり、残りの92名は全く就業していない。就業したもののうち34名が三日以下の就業日数であった。



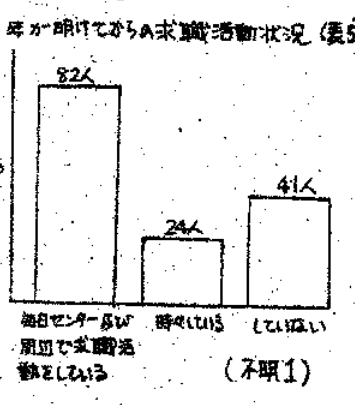
つた理由については、アオカシのためと答えた者3名、病気、体調不良3名となっており、この事をみるだけでもセンターのアオカシ労働者が買収されたこととは明白である。(表4)

ただ、彼らの就業率は、表5、表6をみれば明らかである。決して低くはない。働きたいと希望しつつも、現実には仕事にありつけていないのである。

このようなアオカシ地獄に苦しんでいる労働者に対して、行政はどのような対応をするのか。

表5は、1月17日(越冬を終了後)の就業活動状況を示している。表6は、1月17日(越冬を終了後)の経過を示している。

表5は、1月17日(越冬を終了後)の就業活動状況を示している。表6は、1月17日(越冬を終了後)の経過を示している。



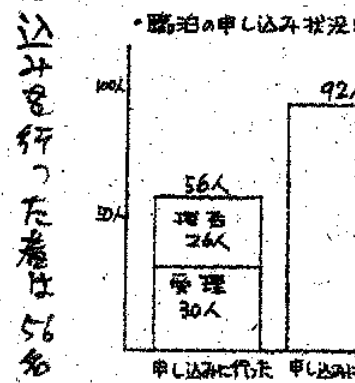
ように対応したのか。

対象のアオカシ労働者のうち、12月、1月には市町村へ相談に行

た者は、のべで、わずか32名、何らかの保護・援助を受けた者は7名にすぎなかつた。

表7は、12月、1月の市町村へ相談した者の申し込み状況とその結果を示している。表8は、12月、1月の市町村へ相談した者の申し込み状況とその結果を示している。

表7は、12月、1月の市町村へ相談した者の申し込み状況とその結果を示している。表8は、12月、1月の市町村へ相談した者の申し込み状況とその結果を示している。



る。行政（市町村）は自治の入手
の基準として白手帳の所持の有
無を打ち出してはいるが、調査の結果
果実をいかにみること、受理、拒否
の基準はかなり恣意的であつて、
福祉切り捨ての口實に利用されて
いるにすぎないやうに思われる。

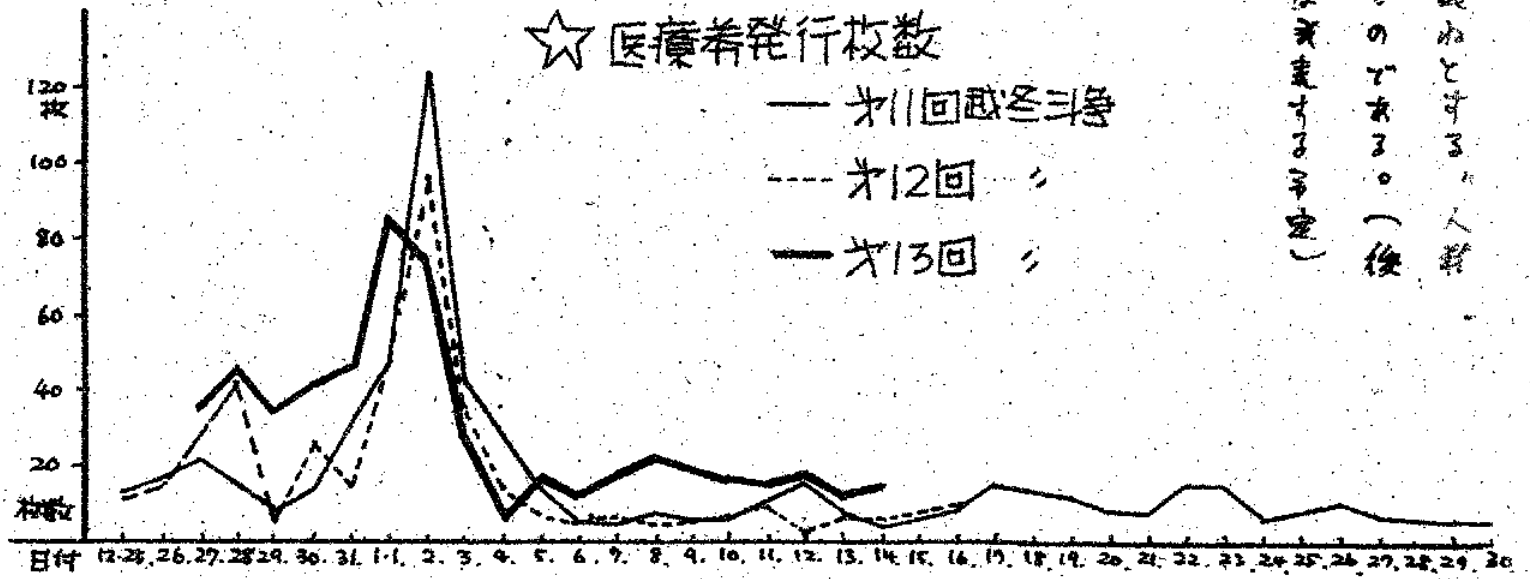
したる者には現れとす。人財
し、行政のそのものである。（後
日詳細な分析は要する予定）

田に一昨年の受け入れ人数は1980名
昨年1386名、今年888名と年毎に大巾
に削減されてきており、調査を行
う路線の表れと見られるを得ない。
更に問題なのは、白手帳を持た
ないより下等の救済を必要とする
アオカシ弱者も福祉の対象外に
置くとすう
全く非人的
的行政しか
行われてな
いという事
実である。
これはアブ

自治申し込み者の白手帳所持の有無と（表8）
受理・却下の関係（申し込み者総数56名）

	申し込みを受理		申し込みを却下	
	人数	割合	人数	割合
認定あり	2	6.7%	3	11.5%
認定なし	9	30.0%	5	19.2%
紛失	6	20.0%	6	23.1%
作っていない	11	36.7%	12	46.2%
不明	2	6.7%	0	0.0%

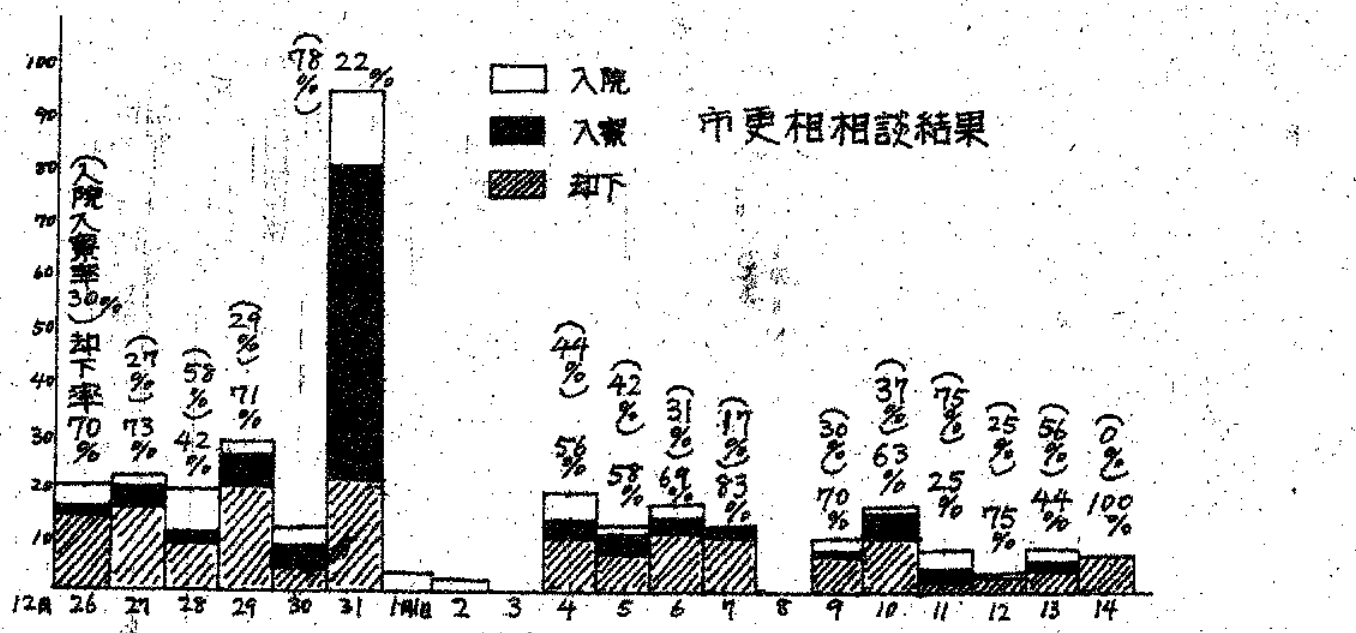
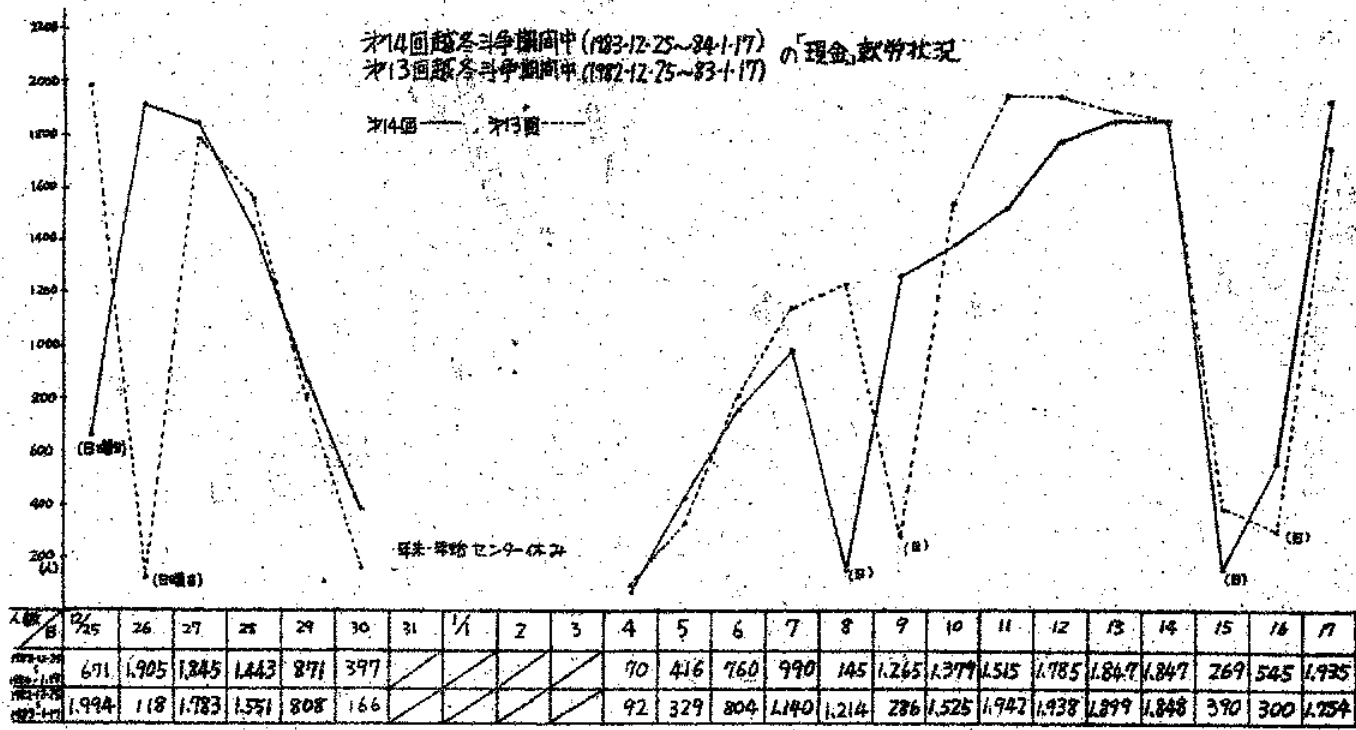
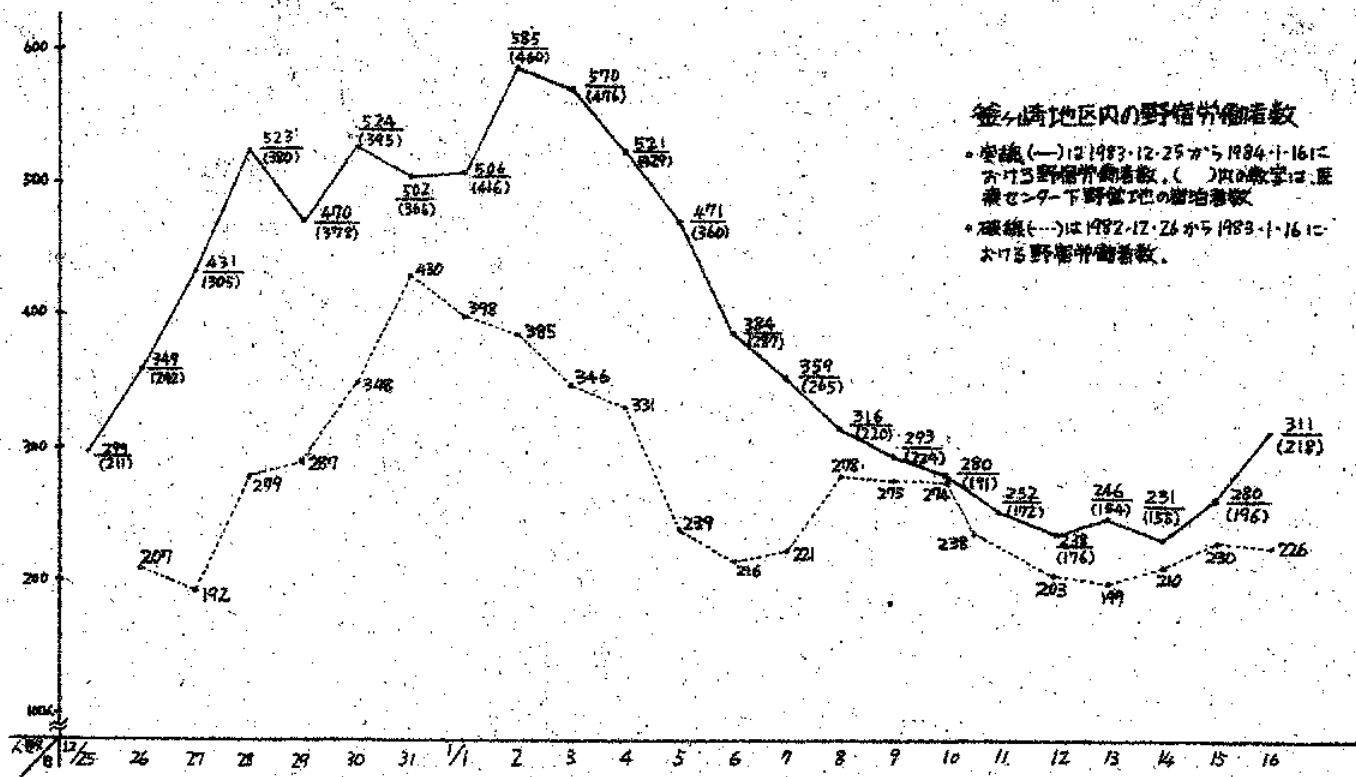
☆ 医療券発行枚数



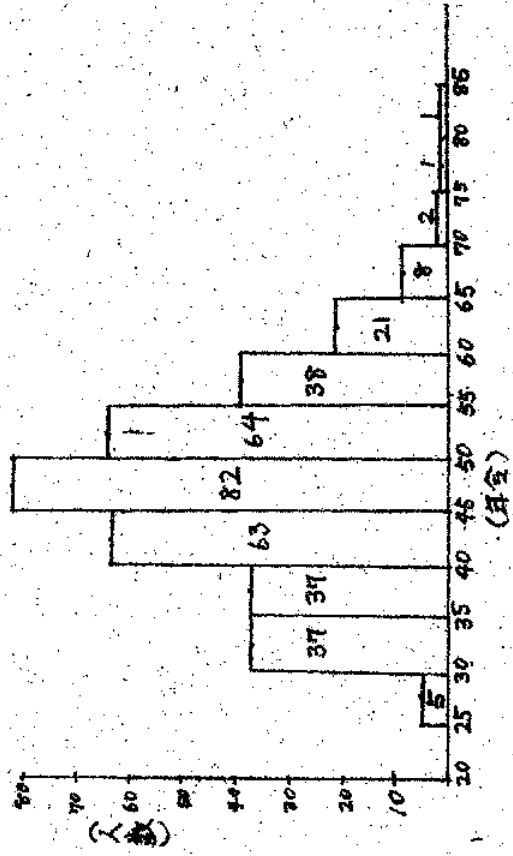
- ☆ 医療券発行時における
おにぎり等の配布量
12月26日～1月16日
- ・米 210kg
 - ・年こしうどん 250人分
 - ・焼そば(1.9) 250人分
 - ・もちごめ(1.3) 120kg

☆ 市越年対策

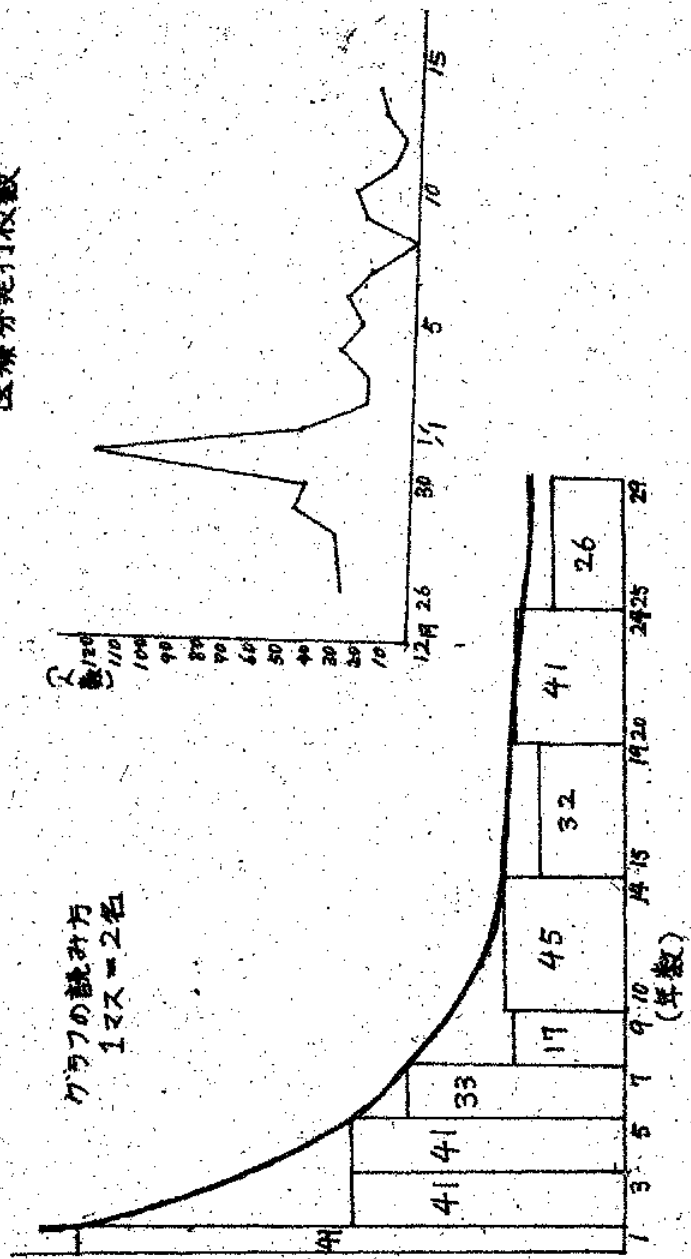
日付	市越年	白手帳	自治	自治
12.29	691人	73人	486人	138人
30	856	88	448	57
31	35	34	5	4
小計	1582	195	939	199
1.1	0	93人	84人	18
2	0	60	72	19
3	0	53	46	9
小計	0	206	202	46
総数	1983人		1386人	
		オ12回	オ13回	



年令	医療券年令別表	計
21~25		0
26~30	正	5
31~35	正正正正正正正正	37
36~40	正正正正正正正正	37
41~45	正正正正正正正正正正	63
46~50	正正正正正正正正正正正正	82
51~55	正正正正正正正正正正正正	64
56~60	正正正正正正正正	38
61~65	正正正正	21
66~70	正下	8
71~75	正	2
76~80		1
81~		1



年数	医療券釜ヶ崎在住年表	計
1年以内	正正正正正正正正	41
2~3	正正正正正正正正	41
4~5	正正正正正正正正	41
6~7	正正正正正正正正	33
8~9	正正正正	17
10~14	正正正正正正正正正正	45
15~19	正正正正正正正正	32
20~24	正正正正正正正正	41
25年以上	正正正正正正	26



今年12月に市更相へ相談に行った。が、ありませんか。

①ある ②ない

実施 1984年1月15日(日)

(9) (8)で①と答えた人に対して)相談の内容とその結果をお聞かせ下さい。
①相談内容

②結果

(10) 年が明けてから市更相へ相談に行ったことがありますか。
①ある ②ない

(11) (10)で①と答えた人に対して)相談の内容とその結果をお聞かせ下さい。
①相談内容

②結果

(12) アオカンをするに致った原因は何ですか。
①病気・体調不調 ②アブレ()頃から ③その他()

(13) 普通のあたりでアオカンをしていますか。

- ①センター周辺 ②三角公園 ③吹き出し公園 ④萩之茶屋商店街
- ⑤南海線ガード下 ⑥新今宮駅周辺 ⑦天王寺公園 ⑧その他(具体的に)

(14) 現在、どのようにして食べていますか。

- ①蓄えの金で ②友人の援助 ③寄せ屋 ④時々仕事に行く ⑤吹き出し
- ⑥残飯 ⑦その他(具体的に)

(15) アオカンを始めてから体の調子はいかがですか。

- ①悪くなった ②以前と変わらない

(16) (15)で①と答えた人に対して)どこが、どのように悪くなったのか、具体的に聞かせ下さい。

(1) 氏名() (2) 年齢()才

(3) いつ頃釜ヶ崎に来ましたか。()年

(4) 白手帳を持っていますか。

- ①持っている 認定資格あり 認定資格なし ②紛失した
- ③持っていない(作っていない)

(5) いつ頃からアオカンをしていますか。

- ①通年()月 ②年末から ③年明け(臨泊終了後)から

(6) 臨泊の申し込みに行きましたか。

- ①行った ②行かなかった

(7) (6)で①と答えた人に対して)その結果は

- ①拒否された理由(具体的に)

②受理された

期間 月 日～ 月 日(日で帰って来た 期間一杯居た)

場所 南港 自強館

待遇(具体的に)

- (17) 年が明けてからセンター及びその周辺で手配師を通じて求職活動をしていますか
 ①毎日している ②時々している ③していない
- (18) ((17) で①・②と答えた人に対して) その結果をお聞かせ下さい。
 ①1月に入って()日仕事に行くことができた
 ②行けなかった日の理由をお聞かせ下さい
- (19) 年が明けてからセンターの3階に行って仕事を探していますか。
 ①毎日している ②時々している ③していない
- (20) ((19) で①・②と答えた人に対して) その結果をお聞かせ下さい。
 ①1月に入って()日仕事に行くことができた
 ②行けなかった日の理由をお聞かせ下さい
- (21) 手配師・友人あるいはセンターの3階等を通じて求職活動をしなかつたり、あまりしようとはしないのは何故ですか。理由をお聞かせ下さい。
- (22) 飯場に入る意志がありますか。
 ①ある ②ない
- (23) ((22) で①と答えた人に対して) 飯場に入れない理由は何ですか。
- (24) ((22) で②と答えた人に対して) 何故飯場に入らないのですか。
- (25) 現場や飯場で仕事を拒否されて帰されたことがありますか。
 ①しばしばある ②時々ある ③ない
 その理由はなだと伺いますか。
 ④仕事に合わないと思われたため (2. 年今のため 3. 体が弱いため)
 ⑤ なにの都合でも (仕事の都合がよくなかった)
- (26) 16日でセンターでの布団敷きは終了しますが、その後どうするつもりですか。
 ①仕事(飯場)に行く ②市更相へ相談に行く ③アオカンを続ける
 ④その他(具体的に)
- (27) 特記事項

「えとう交流紙」の支援単位の活動の精にしらべ

（言いわけ）明日からは、はるかに充実したものをのぞきたいと思えます。イモくて、ダサくて、クサくてすみません。発想のすばらしさを味わって下さい。

へはじめに

24日には配布する予定だ。た釜ヶ崎自主講座のパンフレットも大幅に遅れ、毎日やる予定だった意志統一もスリシュールと個々人の都合でキチンとでききれないという状態がいまある中で、どうしたら初めてきた人や、とびとびにしか来れない人に、越冬の状況を伝え、また学生としてどう金の越冬に南わるのかを意見交換できるのかと考えだしまして、ふとそういって越冬の交流紙をつくれれば、結構キチンと討論しやすいのではないかと思いついたわけですね。日刊えとうとの交流紙を使って、討論の題材として下さい。

（投稿）の
大歓迎
学生、労働者、釜ヶ崎、争議団
を問わず、越冬の感想、路
線提起などを寄せて下さい

パートと警備の報告

日刊えとうを見ればわかると思うが、今年はアオカニしている労働者がすごく多い。27日は全体で43名、28日には53名と、昨年よりも50名は多い。28日などは、フットンガ、医療センター前の道路のセンター前まで来た上、センターの、のキ下まで満パイだった。

12/27、28 医療班活動の報告

医療班の活動とは一言で言っても、病気が傷を負った労働者に対し医療看護を行い、診療や市更相の面接に付き添い、ローをしゃやく作業など。

それに、26日早朝にはフットン場のすぐ近くで倒れていた労働者が死んだ。中曽根政府の戦争準備、お年体制のために行軍が、ロコツに寄せ場にあられれている。山谷で右翼とボリと斗っている。日産全協を支え、寄せ場労働運動と学生戦線との結合を強め、我々自身の階級的位置をシビアな現実を通して自覚するためにも、緊要感をもってやり抜こう。

釜ヶ崎の労働者は、重労働の為、体をこわしたり現場の事故で傷を負い、易い言葉の下にあり、又一晩でもアオカニをやる。闘争が日々タタタになつてしまふ。その林の中で、労働者は誰かを体を治し、仕

参加して来ます。しかし市更相の面接内容は、かなり増加で、頭には受け付けず、入院を却下する。特に27、28日の面接などは、お目から腫瘍の受け付けがあるから、それまでアオカニを待つ。と切り捨てて来ましたが、腫瘍の定着を大幅に減らすために、適当なワケを言う。お目の腫瘍を受け付けを前にして、お目と若干入費を減らす。お目と若干入費を減らす。お目と若干入費を減らす。

医療活動で何に注意するのか

釜ヶ崎の労作者の中には、病氣や傷を負った人がいる。そのような労作者たちが体を治し、労作へ復帰しようとして頑張る。闘いを支援していくのが私達の役割である。

私達がこの医療斗争を行っていく上で多くの獲得点がある。一つには現在の單一福在切り捨て路線が具体化した形としての釜ヶ崎における医療行政の実体とそれに基づく市更相などの労作者に対する対応と、つぎにまのあたりに行うことができると思う。そのような医療行政の差別的政策の実体を見ることにより、釜ヶ崎にかけられている差別の構造を確認することができる。

もつひとつ大切な点は、医療活動によって労作者と会話し、個々の労作者の個人史に出会うことにより、労作者がどのような経過で傷病を負ったり、アオカししたりするようになったのかを具

体的に知ることができ、釜ヶ崎の弾圧とそれに対する怒りに実感をもちつことができるようになると思う。また、労作者の自分に対する具体的な言葉を受け取める中で、自分の価値観を変えられたり、ある時は励まされたりする。

したがって、医療活動をするにあたり、ボーに労作者とどんどん話をしていってほしいと思う。これが非常に大切だ。また、医療活動は、私達にと、ては毎日の仕事である。でも、個々の労作者にと、ては、つつかんだ大事な絆会だから、真剣にフォローし、ひとりの不明者も出さない気構えで緊張感

29・30 臨泊受付の報告

今年には南港臨時宿泊所の定員が昨年の140人から80人に削減され、正月3ヶ月の受付も廃止される行革攻撃の中で、29・30と受付があった。

越冬実と支援の我々、そして数十人

でも。で闘争することが大切だと思ふ。打ち合わせし、かりし、市更相にスキを見せない体制をつくっていくかねばならない。また、医療活動は労作者主体の斗いである。労作者への対応には十分に注意し、労作者を支援する中で自分を検証し、とくに差別医療行政を打ち砕いていく視野を持っていく。

29日パトと警備の報告

各大学の支援が中心になって、昨年に比べて警備とパトの人数はたいへん多い。しかし、臨泊で40人減。たのに、アオカし者は70人しか減。てはしない。朝方には、重症で救急車で運ばれた人もいた。殺人行政の本質がバクロされた。日だった。

の労作者は、正当な死活問題を要求したが、市更相は権力の介入をもち、我々を排除することと答えを見せた。

我々はあらためて労作者殺しとする市更相と行政に対し、怒りをぶつけ、労作者の斗いに等しいとともに要求を実現させよう。

釜ヶ崎支援の歴史的経過

——何故釜ヶ崎労働争闘団と関わり続けてきたのか

私たち関学の学生が釜ヶ崎解放の斗いに参加してから、今越冬にまる5年が経った。私達は、78年12月に、関学の社会学部で都市社会学を専攻している当時の学部長であった倉田教授のゼミで、「あいらん地区見学のお知らせ」と題する差別揭示が貼り出され、また倉田教授自身が、ゼミのテキストに使用していた論文で「労働者」……暴力団が支配するのに通じている」等と差別を煽っていることに対し、先輩諸氏が社会学部差別教育糾弾共闘会評（社共斗）を結成し、糾弾斗争を始める過程で、釜ヶ崎に関わってきた。

その中で、私達が絶えず問い続け、向われ続けてきたのは、「釜ヶ崎の解放とは何なのか」「何故

私達学生が釜ヶ崎に関わるのか」ということである。最初は、釜ヶ崎日雇労働組合全港湾西成分会かというところで論議があり、二回目は、百円訴訟を契機に稲垣氏が釜ヶ崎労働者を脱退して釜ヶ崎地域合同労働組合を結成したときであった。

この論議の過程で私達があくまでも、釜ヶ崎を支援してきたのは、ひとつには、西成分会が大手建設独占との交渉のみで、労働者への直接的抑圧者として登場する手配師・人夫出しとの斗争を行わないこと、稲垣グループは、現役層労働者の決起を引き出さず、炊き出し等のみで救済主義的傾向であること、これに対して、当時の釜ヶ崎と現

在の釜ヶ崎労働争闘団は、釜ヶ崎の斗いを継承して、寄せ場の支配の要を担う重層の下請構造に對して現役層労働者の決起を軸に実力で斗い、また寄せ場支配の背景をなす日帝ブルジョアジムの支配体制に對して断乎政治的決起で斗っていたからである。ふたつめには、斗争形態を導き出す寄せ場解放の方向性において、西成分会の総評・民同路線、釜ヶ崎の救済主義という資本主義の枠内での肉體の根本的解決を考へる傾向に對し、釜ヶ崎は釜ヶ崎の解放を労働者階級の解放、資本主義の打倒という方向で提起してきたからである。

私達は、こうして釜ヶ崎労働争闘団を支援して斗いの中で、斗いの出発点であった釜ヶ崎差別との斗いを軸としつつも、釜ヶ崎

の解放と結びつくという視点から「アブル」野垂れ死保護処分、重層の下請制度による悪質労働者の寄せ場労働者への抑圧の根本原因は、日雇労働という就労構造、つまり資本主義が必然的につくり出す労働者階級軍という構造にこそあること、そして、労働者階級の解放とは全労働者階級の解放であること、日雇差別とは、資本主義がつくり出す階級差別であると提えてきた。

そして、寄せ場労働者の斗いや感情と接する中で、資本主義、帝国主義を打倒する主導部隊は労働者と資本の生産関係にある労働者階級に他ならず、それ故私達学生は彼らの斗いと結びつき、學んでいかなばならないという結合の意義を捉えてきた。絶えず「釜ヶ崎の解放とは何か」「何故学生が寄せ場と関わる必要があるのか」と問い続けていく。

1/2 山谷斗争報告

右翼皇誠会・国粹青年隊の登場を許さず越冬貫徹中

一月二日に天皇の一般参拝があり、国粹

青年隊が全国動員で山谷に登場する怖れがあるといふことで、争議団と山谷越冬斗争を防衛するために、釜日労、争議団や他の大学の学友とともに、日豊全協関西系連団として山谷越冬斗争に結集した。

越冬公園の玉姫公園には30名近くの労働者と支援が集まり、炊き火を囲んで活気のある越冬活動が展開されていた。労働班の机を出しての労働相談、一日3回200食の以上も作っている炊き出し班、医療班、公園を右翼ヤウザ、ポリ公から防衛する防衛班と急がしく活動がなされていた。

一方、11月3日の右翼皇誠会II西戸組の武装襲撃以降毎日続けられてきたセンター前の事務所防衛の斗いは、国粹青年隊10台が皇居や靖国神社に向か、たという情報があり、皇居「ミニ」襲撃、防衛体制が敷か

れた。

しかし、玉姫公園での争議団、労働者、支援が一体となった越冬斗争、全協関西系連団を加えての拠点防衛の強化という攻勢的な斗いによって、国粹青年隊は山谷に一歩も近づくことができず、西戸組は層層に事務所を明けしたが、ととくさく一時間ほどでシャッターを閉めて逃した。

五時から、権力による越冬玉姫公園への封じ込め、拠点防衛との分断策動を打ち破るフッシュイデモが二百名近い隊列で打ち抜かれた。

争議団と労働者と支援を結ぶ意志統一とはかる情宣活動も、越冬機関紙「黙って野垂れ死ぬな」の朝、夕二回刊、年末年始の収容所での斗いを伝える「収容所闘争」、「皇居ミニ」

支援戦線での「赫旗寄せ場版」「山谷共

斗を通信」と活発に展開されていた。山谷越冬の特徴は、越冬公園を軸に山谷労働者の主体的参加が目立ち争議団労働者、支援が一体となって展開されていること、右翼皇誠会II西戸組追放斗争への圧倒的な労働者の支持によって、熱気あふれた緊張した斗いが行われていることである。

いま、山谷は右翼反革命との対峙、日帝一中曽根自民党政府による竹名逮捕、12名起訴という組織破壊攻撃を打ち破り日本階級斗争のガ一線で、「日帝の戦争と侵略、差別排外主義を打ち砕く階級的労働運動の布陣を」をスローガンに掲げ実力対峙を続けている。

我々も日豊全協、階級的労働運動と結合した斗争を戦線をつくり上げよう。

1/1 抗議行動

一日午前、桜井鉄工の組合つがしき目的とした不当解雇に対する抗議行動が、全金・西成地域労組・釜日労・支援労働者・学生ら約50名によって桜井鉄工事務宅前で行われ、元旦をぬくぬくと過ごす閑静な郵便街に「桜井糾弾」「解雇撤回」のコールがこだまし、通行人からは奇異の目が注がれた。地裁・高裁の「解雇不当」判決にも拘らず会社側は復職を認めようとせず、この元旦行動も8年に恒つて続けられている。これを機会として、われわれ学生もこのみずな

交流会に参加しよう

12月20日に行った釜ヶ崎越え闘争支援関西学生交流会をどうにか開催させようというので、実行

資本の居直り、右傾化を許さぬ姿勢を、年頭にあたって再確認しよう。

南港を見よ……

そして、抗議行動の後には、その足で南港臨泊を訪れた。プレハブ周辺に二重に張られた有刺鉄線のフェンス、激駭する監視員、機動隊など、さしずめ収容所の物々しさを、生身の人間ハ〇〇人を扱う「福祉」施設にはとても思えなかった。また、監視をしているのがわれわれと同じ学生のアルバイトということで、12月30日の市吏相と同様金のためなら右翼的行政にも加

委(京大・大谷・関学)主催で学生間の交流会を行います。

一月六日(金)二時~五時
解放会館のFプレハブにて

1/2 警備の報告

本日の警備からミノギの横行に対処すべく、ミノギパトロールを再開した。1時から三班に分かれ、新今宮駅周辺・西成駅周辺・四角公園・三角公園等を巡回した。途中ミノギバンガード前にて被害者一人発見。三人組にやられたとのこと。加害者は発見できず、被害者をバスまで連れて、応急手当

担しかねない学生という立場の恐ろしさ・無責任さを改めて考えさせられる。今、自分が学生であるということと社会状況の中であらうえ、再度自問してみた

1/3 ちつきき報告

二日10時から、正月恒例のもちつき大会が三角公園で行われ

その後、八千代前及び三角公園でミノギらしきオッサンに説教して帰ってきた。その後、ミノギのしほをつかまえてセニター前で糾弾その他通達警備は現状なし。ミノギを許さず、越冬斗争を徹底しよう。

明日は殺人行政糾弾
斗争。全力で決起
して斗おう。

た。餅を配る列の中から「ワミン」もつかしてくれや」と積極的支援を申出る労働者が続出、もちつきに不馴れな学生のみき手本となり、労働者・学生ともに汗つき、餅返し、餅コネと汗を流しての奮戦だった。文化・スポーツ行事への参加は、労働者の笑顔、やさしさと接点として、また、闘争の活性化剤として貴重なものとなっている。

学生交流会に向けて

越冬の関わりをめぐって学生運動の 発展についてなげくの巻(1)

私たちが支援が何のために日置労働運動に
結びつかねばならぬのか？何のために越
冬に関わるのか？このことは越冬に関わる
すべての支援戦線が絶えず自らに厳しく問
い続けなければならぬ課題である。そし
て学生運動をどう私たちに。これは、今越
冬に関わる現実、感じたものなどのみならず
学生運動の発展の糧にしていくのが、私たち
が今までつくり上げてきた学生運動の質が
プロレタリア下層である日置労働者の解放
にと。ていかなる意味を持つ。しているのかを
厳しく問われねばならぬ。

私たちは越冬に来て様々な労働者に出会
たはずである。釜ヶ崎、選挙団の斗いまで支
持するが故に我々をも支持してくれる労働
者。私たちに「えとろ」を渡りこむこと

くる労働者と。ついでに数々の医療にや
ってくる労働者の多くは、「こうだ。た
う。う。しかし、もう一方で「学生が何
しに参入してきているのか」と厳しくなげ
かけてくる労働者がいる。

これら様々な労働者に出会い、そし
て越冬を「行方不明」的に接すれば接す
るほど、私たちが学生の生き様の「甘さ」
日置労働者との断層の大きさを感する
はずである。

それ故、その出会いの現実の中では、
私たちが口に「目指そうとする」「日
帝打倒」や「革命」という言葉、「一生
を通じて私たちがどう日置の解放と自
己の解放を結びつけて闘うのか」、厳
しくなげのけられていく。それ故、

に私たち学生も抑圧されている。日置勞
働者も抑圧されている。だからともに斗
かおうというベルでの連帯の内実や、
戦争的に国家権力と斗えばよいことにつ
ベルでの学生運動の質は、あまりにも
一方的で甘いという現実にはぶつ当たり
るさえない。私たちの斗いへの厳しさを、

思想的内実が問われ、私たちが語る斗い
の方向性に対していかに責任をとって
いくなかが問われる。「革命」という意味
が「何のための日帝打倒」が「解放」と
は何なのか？両書の中でのどのようにつ
どどのようにつなげようか？いかに
厳しくなげのけられ、それに答えていけ
る学生運動論と実践の内実をつくり上げ
ていくことを問われていくのである。

14 行政斗争がわれる

一月四日、大阪府・市への
抗争行動が行われた。年末
年始、ただでさえ仕事のない
時期、今年は中曽根自民政
府の行革、臨調路線によつて
ますます仕事がなくなってい
る。そういつた中で、約60人
の日雇労働者が、ドヤに泊ま
る金もなく青カンを強いられ
ている。

そして、この12月から1月
最初までだけで、約30人の日
雇労働者が、この寒さの中で
行路病死という形で殺されて
いた。それに対し、大阪市
当局は、南港の臨時宿泊所の
収容人員を千四百名から八百
名に削り、また部屋が空いて
いるにもかかわらず、労働者

を泊めないという、小せけた行政
を行っている。また、大阪府当局
も、年末の特出し(特別求人)の
あつせんもせずに、全く仕事を止
まるとしない。30人の労働者を殺
したのは明らかに市当局、府当局
なのだ。これに対して、越冬実
査団、争許団は断きとして抗争
に持ち上がった。

15 医療活動より

年末から正月にかけて医療・パ
トロール等積極支援する労働者
の姿が目立ったが、なじみの顔が
今日は少ない。ボチボチ仕事が出
始めたので現場へと出陣していっ
たのだろう。そのための医療の要
付数も少人と減少、白手帳なし
市更相入行くのは初めてという人

労働者、支援約100名が「勝利」
にて出発。市庁前においては、要
求書提出と、集会、デモ。この集
会では、小柳牧師、阪大、京大、
関学からの連帯アピールが行われ
た。そして、府庁前においても、
要求書提出と集会、デモ。釜日労
争許団が決意表明を行った。
この抗争行動は行動隊の妨害を
はねのけ、終始戦線的に貫徹され
た。

がほとんどだった。こういう場合、
労働者の側が何をしても更相入行
くのかのみをめざす、あつさり引き
下がってしまう恐れがあるもので、
当然の権利である生活保護を勝ち
取るために、粘り強く交渉しまし
よう、というアトバイスをお忘れ
ないように。労働者にとって、真
に実のある医療活動を心がけたい。

この斗争は今年が一回目の斗
争として、今年一年間の斗争を
断りきり抜き、皆の熱い団結で
この小せけた殺人行政を直いつ
めていこう。

塚本さんという労働者から、
直接学生との交流会をしたいと
いう提議があり、行うことにな
りました。「なんのために金に求
てるのか」「等、激しい突きつ
けがあるとは思いますが、私た
ちの寄付場日雇労働運動との関
わりへの根本的な姿勢を激しく
考え直す契機になると思つので
ぜひとも参加をお願ひします。
とき：一月八日(日)
朝十時から
ところ：市営住宅に隣る居室

越冬に引き継ぎを終えようとしたあつこし

越冬の成果を学生運動の発展につかひに結びつけていくのか(2)

冬は回復を以ては、闘争の回復活動

をきいて終りようとする。この

冬の中で現れた日本社会の現実、労働者

の姿、学生闘争の発展、学生闘争の

越冬に向わ、たまたま学生は今冬の闘争

は、越冬に引き継ぎようとする

発展への引き継ぎようとする

斗いである。学生闘争の発展

げようとする。学生闘争の

多量な越冬が実現として現れた

ものは、殺人行政の発展である。中

根政府の道徳的発展として現れた

事の本質だ。さうして、また、

様々な斗いの発展として現れた

闘争の発展として現れた

闘争の発展として現れた

闘争の発展として現れた

闘争の発展として現れた

みてきた。ただ、

越冬に引き継ぎようとしたあつこし

の中で得た感性を、物の見方、考え方を

単に越冬のままに引き継ぎようとするのは

なく、自衛隊のような現実が存在するの

が、このように現実を根本的に変えるに

は、引き継ぎようとするのが必要である。理

論として越冬に引き継ぎようとする

この闘争は、学生闘争の発展として現れた

私たちは学生が闘争に引き継ぎようとする

の任務を闘争に引き継ぎようとする

こと、「気が向いたら行く」とか、「しん

どいから行かな」とか、「さ、自由な

的を闘争に引き継ぎようとする

こと、引き継ぎようとする

私たちの闘争は、学生闘争の発展

労働運動の発展に引き継ぎようとする

と結びつけていく」とか、「と結びつけてきた。

労働的に現れるならば、それぞれの学

生闘争が、どのような闘争から越冬

冬に参加し、労働者と結びつけたとしても、

越冬に引き継ぎようとする

つまり、階級的労働運動の斗いとして年

向き闘じた斗いとして、「殺人行政

と対決し、労働の闘争を闘争」とか、「引き継

られた斗いとして現れた。その斗いとして

に結びつけていくのが、引き継ぎようとする

このため、そして、学生闘争の発展

これは、学生闘争、全労働者の闘争として現れた

を闘争に引き継ぎようとする

こと、引き継ぎようとする

これは、学生闘争、全労働者の闘争として現れた

を闘争に引き継ぎようとする

そして、学生闘争、全労働者の闘争として現れた

を闘争に引き継ぎようとする

闘争に引き継ぎようとする

は、日蓮全協は意識的に「闘いは、日蓮一層労働者との結合を軸に、日蓮一層労働者の闘いと生き様から学び、労働者階級の闘いと結びつく中で、日帝一中曾根政府の戦争準備と政治反動、軍法・行革・改憲攻撃と対決していく学生との闘いをくり上げていくことである。スローガンという基軸の獲得目標をまず取って、この闘いをする努力がなければ、いくら越冬に真面目に参加し、何が感じようとも、それは行政の肩代わりとしてのお伝だけでしかありえない。越冬を終えるにあたって、このことを厳しく向うていく作業が必要である。

最初は「現実を知ろう」ということではあっても、一度越冬を経験したならば、日蓮一層労働者をアプシ、野蠻れ死へと追いやっていくとするこの社会の中で、私たちが学生としていざとつ生き、学生を終えたあともこの社会とつ闘って生きるのかを厳しく向う行動としてあらわしていくこと、なければならぬ。労働者の中で絶えず自己の闘いと生き方を厳しく向われていくことにこそ、私たちが掲げる「階級的労働運動との結合」の意義がある。

それ故、「結合」とは、単に学生と労働者が政治斗争で結びつくことではなく、また、両者の独自の利害の共通点で結びつくことなどでは決してなく、政治斗争を階級的労働運動の隊列として闘い、越冬斗争や労働斗争などと経済的斗争とつくり出す。この「階級的労働運動との結合」を私たちの学生運動の中で掲げる重要性も、結合の形態も、越冬斗争の過程で、序々にてはあれ、明らかになってきたはずである。

年向を通じた日蓮全協との結びつきを強め、強固な学生運動の隊列をつくらう。

闘いの意義を明らかにし、結びつきを強めたために、「日蓮全協創立大会報告」「14回越冬斗争」

「83年労働者手帳」を借りて、各大学・学生相互で一大労働者運動をつくらう。

越冬の成果を学園に持ち帰り、学生運動を強めよう。

学生生の越冬への関わり

83年12月16日
関西学院大学越冬支援集会
12月17日
大谷大学越冬支援集会
12月20日
越冬支援関西学生交流集会
(主催：京大・大谷大・関大)
参加：同大・阪大・聖和など11大学
84年1月6日
越冬中間学生交流会
参加：京大・同大・大谷大・阪大・関大・兵庫医大
計6大学

斗いと仕事

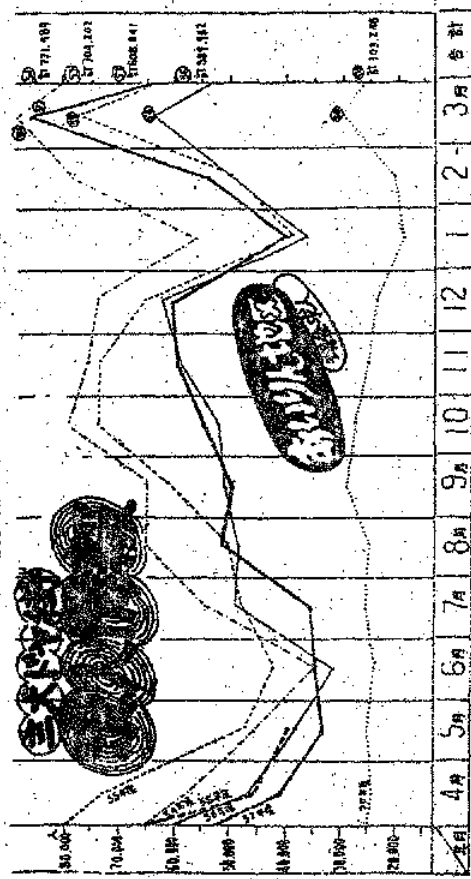
之万金や崎村竹清くうち(万6千名が白手らちと推定)の職并
が保障される求人数は、

年間 約70万人 月間 6万人 1月 34人

のセクター-現金求人がある時である。ただし、例年、越年勤と梅
雨時は、仕事量が存々減りしてはいたが、80年以降は、越年勤と4
月なら7月まではアツレが強まっしている。

セクターだより

発行所 (国工)
田沼法人労働力調査センター
大塚市西長崎4-1-30 4F
TEL 03-4203-8077 FAX 03-4203-8131



上のグラフでは、50年度(81年)の4月からの急下降～6月ま
での落ち込みは、天王寺公園周辺にアオカシ者が増大する。
失業認定資格取得は25日以下に落ち込み、1人平均10日くらいし
て求人数が、3万5千以下に落ち込むと、1人平均10日くらいし
て求人数が、3万5千以下に落ち込むと、1人平均10日くらいし
て求人数が、3万5千以下に落ち込むと、1人平均10日くらいし
て求人数が、3万5千以下に落ち込むと、1人平均10日くらいし

50年(75年)の点線のグラフの時(オイルショック)はセクター
には現金求人の方が一歩もこななかったのである。つまり、月間、
3万人の現金求人では、セクターからは就労不可能なのである。

春期の斗いは?

春期斗いの行状は、主に2月～3月末に至る。セクターに仕事
現金求人)がある時、現金求人業者に対し、賃上げ要求を掲げ、
斗ってきた。この時期をひきかすと賃上げ斗争はあつたくなる。

昨年の春期斗争は、セクター内で連日斗われ、5部門の賃上げを
勝ちとった。

今春期斗争は、単価74円(現金)の土工平均賃金の上のせ
と、飯場(期間雇用)の実質的な賃上げとタイグラ改善を軸に
戦術をたてる。1月10日を境に上昇していた求人を守る。
ここから2月いっぱい飯場・現金ともに就労=調査の方法で、
最も劣悪で名前の通った「人夫出し」を的に3月期、求人半年
度までいぞがしれ時にセクターを総案に斗う陣型を作る。

現金業者に対しては、

単価、交通費、印紙代、屋メシ、スニーカー など

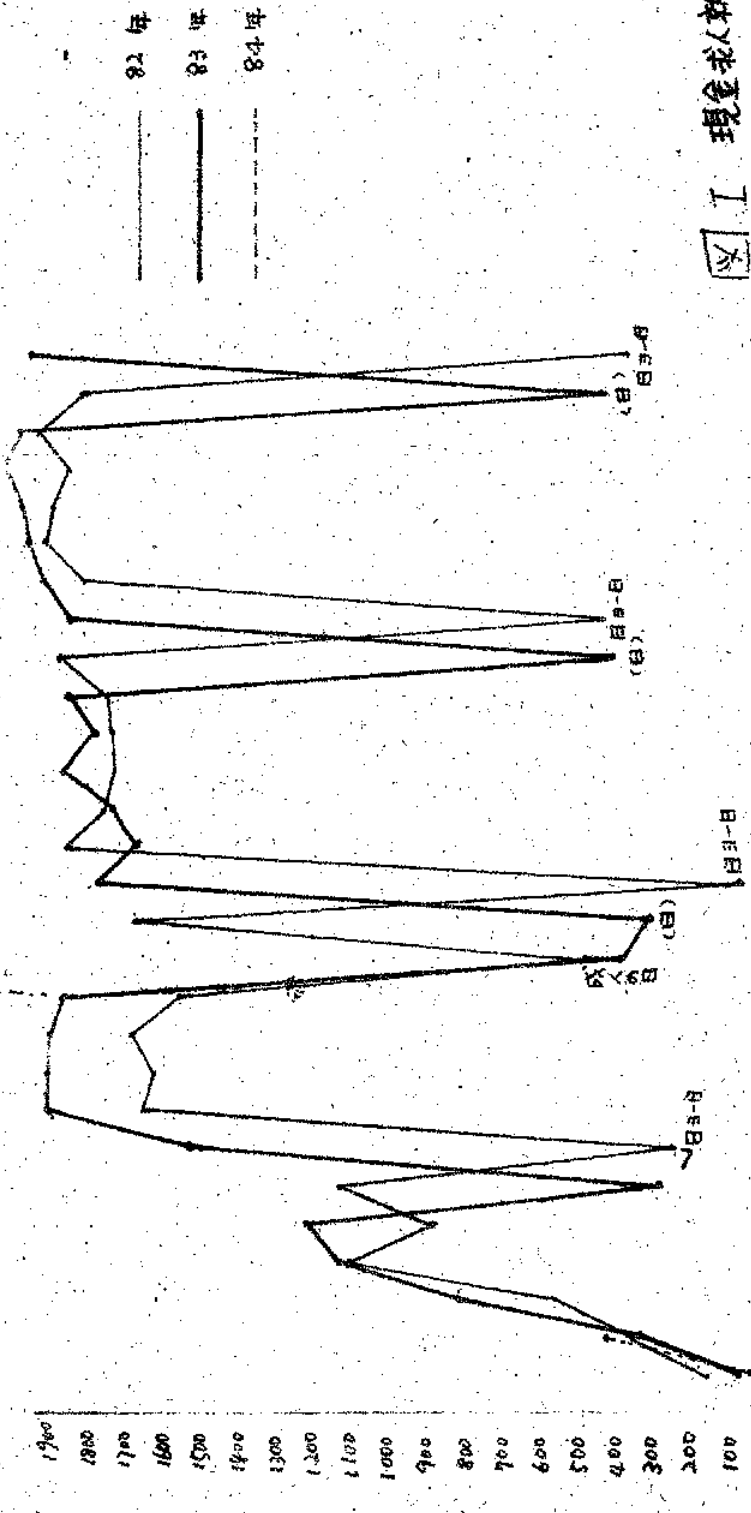
飯場に対しては、

飯代、衛生費、諸式、るとん代、印紙、条件、交通費、残た
く代、干しび、など

小さな問題を大きくとりあげ、こつとして行なうこと。

● 月平均就労日数 14~15日

平均月収 約 9万円

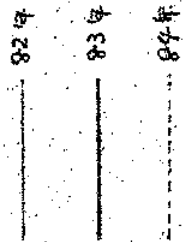


図Iは、82、83年の1月の求人状況で、4日から仕事が始まり、10日前後からほぼ一定している。日曜・祭日は極端に求人が少ないのがわかる。

図I 現金求人状況

人数
日
4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

図IIは、求人業者数で、日曜・祭日は求人数がそれほど少ない。一業者の平均求人数は約10名で、昨年より、業者数は減少し、人数は増える傾向にある。



図II 求人業者数

求人件数
日
4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

前13回越後平塗
アオカシ者総数の推移
・ 仕事が出ればアオカシは減る
・ 11月終了と日曜だからより8月10日はアオカシ者が減る。
今年が14回越後平塗アオカシ者



4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16